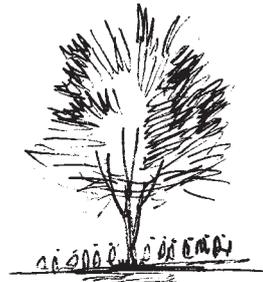


# 光の子



No.198 2020.12.15

●年間聖句 信じます。信仰のないわたしをお助け下さい。

(マルコによる福音書9章24節より)



「Present for you」

表紙絵・中島由起子

「京しぐれ」

京へ入る道のしぐれてゐたりけり

連れ立ちて舞妓出てゆくしぐれかな

ぜんざい屋混み合うてゐる片しぐれ

からころとおこぼの通る時雨かな

看経やしぐるる山に囲まれて

ひとつ灯のぼつんとともる時雨かな

山上に夕日を留めしぐれけり

黛 執 (「春野十二月号」)

# クリスマスに思う

—弱さにあつて強くされ—

日本基督教団北本教会牧師  
聖学院大学名誉教授

阿部 洋治

エフェソの信徒への手紙1章15節以下に、エフェソの町に誕生した小さな教会のため著者パウロの祈りが記されています。その一部(18〜19節)は次のような祈りです。「<sup>18</sup>(あなたがたの)心の目が照らされ、神の招きによる希望がどのようなものか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか、<sup>19</sup>また、私たち信じる者に力強く働く神の力が、どれほど大きなものかを悟ることができまますように。」(聖書協会共同訳)

ことであり、「力」とは「道に立ちただかるものを克服する力」のことです。そうしますと、「神の力の卓越した偉大さ」と言いながら、パウロは、「道に立ちただかるものを克服して実現に至らせる力」を心に留めていることが分かります。そして、この後の20節からは、「神は、この力をキリストにおいて行使し、彼を死者の中から復活させ、天上においてご自分の右の座に着かせ」と続いて行くのです。

このように、パウロは、イエス・キリストの十字架の死と復活において現された神の力、すなわち「道に立ちただかるものを克服して実現に至らせる力」を行使される神の力を「卓越した偉大さ」と語っているのです。

ところで、神の力の卓越し

た偉大さを知ることが私たちにどのような意味があるのでしょうか。パウロは、自分の体のことでの苦闘があり、激しく熱心に祈ったことがありました。主イエスは答えられました。「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れる」(第2コリント12・9)と。

私たちは自分の弱さの虜になつてしまうことが少なくありません。その弱さ故に一歩も前に行けなくなってしまうのです。けれども、「(神の)力は弱さの中で完全に現れる」との御言葉に励まされたパウロは記します。「だから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしは弱い時にこそ、わたしは強いからである」(同12・9〜10)と。まさに、パウロは、道に立ちただかるものを克服して実現に至らせる神の力を主イエスの十字架において見たのです。

宗教改革者カルヴァンは、「(神の)力は弱さの中で完全に現れる」という御言葉に触れて記しています。「それ(神の力)はわれわれのうちはまだ隠されている……。この世の子らと比較して、われわれの状態がなにか劣っているかのようにおもわれる、まさにその点においてこそ、われわれはかれらを超越しているのではなからうか」と。たとえ、私たちが、他の人々よりも惨めなほどに、無数の苦しみに服していると、イエス・キリストが私たちの中に働いて下さり、その弱さに打ち勝つて道を切り開いて下さるからです。



クリスマス 佐藤家の窓の切り絵

養護メモ 184

## 成り立ち

光の子どもの家 名誉理事長 菅原 哲男

私が子どもたちの不幸をメシンの夕ネにし始めたのは、29歳の4月、福島勲牧師同道のもと神奈川県湯河原町の城山学園に伺ったことからであった。

都内私立大学で物理学教室の助手から転じて売春防止法を根拠にした婦人保護施設いずみ寮ではたらきに一定程度限界を感じていた。そこで半数以上の婦人たちが児童福祉施設利用者だったことから、大人になる前に適切な関わりをしていたら売春などに身を落とすことはないはずだと考えて、子どもの施設への転身を試みたのである。

福島牧師はいずみ寮の施設長であり、荻窪教会を牧しておられた。

いずみ寮での5年弱の関わりで、彼女たちなりに一般社会への復帰を目指してかなり努力し、暮しのなかで濃密な

関わりを展開しても社会への復帰が果たせないことなどに行き詰まっていたのだった。そこでの経験から、性の行使はその始まり方が、その後の人格や生き方を決定すると思わされたことでもあった。

神奈川で足を踏み入れた養護施設は、廃屋を移築した採光の悪い平屋であった。先の敗戦から20数年余過ぎた頃で、混乱した戦後の匂いが染みついてもいたのである。

その頃の養護施設と称していた児童養護施設のその形態はほとんど大舎制であった。家庭で家族と暮らすことのできない子どもたちが身を寄せる場所が、学校のような建物にたくさんの子どもたちを収容し、少ない大人たちに管理されているという状態であった。

敗戦後、多くの子どもたちが、保護し生きる手立てを与

えてくれる家族を失い孤立して浮浪している状況を行政は何とか社会から隔離しようとして、孤児院を養護施設と言いついて大量収容を試みたのであった。

1944年に入り、日本本土への都市無差別爆撃が行われるようになり、両親・親戚などの保護者を失う子どもが急増し、翌年8月15日の戦争終結後は、国外から引き揚げた孤児らも含み社会問題化した。

当時の責任省庁である厚生省は1945年9月20日に戦災孤児等保護対策要綱を発表し、戦災孤児らの保護として、

1. 個人家庭への保護委託
2. 養子縁組の斡旋
3. 集団保護の対策

という対策をとったのである。当時の東京都の児童相談所の仕事はじめがトラックの荷台を満載にして、いわゆる浮浪児狩りを主なはたらきとしていた頃が残滓としてあった頃である。

これらの浮浪児、孤児などのほとんどが孤児院から養護施設と名を変えた児童養護施設

設が社会的機能としてそれをまかなわされたのである。大量収容が理の当然だった。

50年前の城山学園は、駅の背面の箱根外輪山に連なる急勾配の坂道の城山ハイキングコースの中腹に位置し、タクシーの乗車拒否が日常的な、その上には民家などのない児相による社会からの隔離としての児童養護施設機能の具体例とも言えた。

駅から2キロあまりの急な斜面を子どもたちは毎日通学や生活のために登り降りしていたのだった。

第二次世界大戦敗戦後の浮浪児狩りをはじめとする大量収容から、昨今の施設を小規模化して地域分散化を目指す取り組みを具体化することに至る、よりましな暮らしへとその機能やはたらきの原理を変えし、転換し続けたのがこの半世紀の非常に困難な児童養護施設のはたらきの内実なのである。



# COVID-19をH1N1と恐れる

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

前号の「光の子」に、我が国の人々のコロナ対応の様を嘆き、「鬱・鬱として」とタイトルに書いた。しかし、最近、鬱々としてなどいられないことを気付きました。集中治療医学会東北支部学術集会の講演を依頼され、最初は50年前に出会ったNK細胞の発見に至る思い出話でもしようかと思っていたが、まさに前線でコロナに対応している人たちの前で、呑気そうにNK細胞の話はできないことが、頭をかすめた。

懸命に勉強して、コロナのことを語った。資料を集めている中で、目的とするコロナと免疫の関係に関する文献の他に、免疫とは関係ないコロナに関する世界中のニュースにも接した。一方、我が国に目を転じてみると、新型コロナウイルス恐怖症が広がっていきばかりである。ここは、鬱々としている暇などなく、

これまで得た情報を基にして、COVID-19に関する正しい知識を私なりに皆の前に示していくのが、与えられた勤めではないのかと思うようになった。

今突如COVID-19と書いた。以後新型コロナウイルス感染症という言葉は使わない。実は、SARSの時も厚生省は当初新型コロナウイルスという言葉を使っていたことを知ったが故のことである。新型コロナウイルスが幾つもあったておかし。正式にはCoronavirusDisease-19という(略してCOVID-19)。

恐怖症の由って来る理由は、無知にあると見た。さる有名な芸能人は、スーパーマーケットで買い求めた野菜はコロナが怖いから、消毒してから冷蔵庫に入れると、真顔で言っていた。学校の机や椅子、全車両の電車の内部等々が消毒されている様が報道さ

れば、物を介した間接的な接触感染について、かの人がそのような行動を取っても責められまい。しかし、最近の研究によって、接触感染はCOVID-19の主たる感染様式でない事が明らかにされている。また、COVID-19を引き起こすウイルスのSARS-CoV-2とウイルスの構造が似ているインフルエンザウイルスの話ではあるが、ウイルスはヒトの手の上では、5分で不活化されるといふ。やはり、感覚的な対処法に頼っていたのでは、この先持たないと思う。ここは、COVID-19そして、その起因ウイルスであるSARS-CoV-2についての知見を多くの人たちが共有し、それに基づいた科学的な対処法を展開していくほかには道はないとみる。

最近、感染者の咳、くしゃみ、大声などで排出される2m以内に落下する大きな水滴の中に含まれるウイルスによる飛沫感染の他に、もっと小さな水滴がより遠くに飛んで行って起こるエアロゾル感染がCOVID-19で重要であることが、感染様式を専門と

する学者たちによって提唱され、飛沫感染と接触感染が感染様式の主体であるとするWHOやCDCとやり合っている。コーラス練習中や小さい劇場のクラスター感染などの多くの例から考えて、エアロゾル感染が重要であることは間違いない。しかし、しかしである。「ウイルスがフワフワ浮いて漂っていて、こんな危険なことは無いのではなにか」と多くに人たちが考えるようになることを想定すると、待つてくれと言わねばなるまい。エアロゾル感染は上記のような条件下で起こるのであって、常態としてエアロゾル感染によってウイルスがフワフワと広がっているのではない。

ここが重要なポイントである。COVID-19発生の実態を総括的に把握する必要があるのである。そのためには、起因ウイルスの性質、感染様態の全体像、社会的な対応の実態等々、COVID-19感染の多くの規定因子に関する知見を相乗的に組み上げていくことが求められているのである。しかも、それは、専門家が実



## 世界地図で

彫刻家 中島 睦雄

私は今世界地図を広げて、ページをめくっている。何故かというそれはパキスタン国の位置を知りたかったからである。

勿論、パキスタンという国名は知ってはいるが、それがどこにあるのか知らなかったからである。

そこで地図で調べたところイランの東、アフガニスタンの南、インドの西の位置にあることがわかった。

それがどうしたのか？  
実はちょっととした説明が必要である。

かなり昔のことだが、私は利根川を渡り茨城県古河市を東に向かって車を走らせている道中に「カリフォルニアシヤワー」という飲食店が目についた。

なんとなく入ってみた店だったが、そこで出された料理が、大変美味だったのである。

それから私は、機会がある毎にその店に入りあの美味だった料理を注文していたのであった。

注文する料理はいつも決まっていた、そればかりを注文し、そして座る席も同じと決めていた。1人の時も勿論、家内と一緒にの時も……そんな繰り返しを続けていた。

おそらく5年以上も続けていたのであった。文字通り常連となっていたのである。

ところが或る時、その店が突然閉店してしまったのであった。

その店のご主人とも、その奥さんともすっかり顔なじみになり私も家内もその店と料理が楽しみになっていたのに……。

それから数年が経ち、あの店があつた場所がどうなつたか気になり、行って見たが、あの懐かしい店はすっかり変わって馴染みのない店になつ

ていた。

私は、あの親切なご夫妻や、美味だった料理の事を思いながら、更に車を走らせる、少ししたところに蕎麦屋を見つけた。もうすっかり日が暮れていたのだが「蕎麦」の文字が大きく見えた。

そこで私はその店に入ることにしたが、ハンドル操作を誤り縁石に乗り上げてしまったのである。そして車体の後ろは道路にはみ出したまま、それでも道路からは車が流れてくる。

私はどうにかしようとして色々試みたが車はピクリとも動かず、なすすべがなく困ったものだ。この辺りは知らない土地なので車体を動かすてくれる業者を探すことも困難だ。絶望的である。

すると蕎麦屋の駐車場に一台の車が入ってくる。そしてその中から2人の若い男性が降りてきて聞いたことのない言葉で何かを言っている。どう見ても外国人である。しかし何を言っているかわからない。

そして2人が車を動かさうとあれこれしてくれたのであ

る。しかし動かない。

そのうち1人がどこかへ行き、暫くするともう1人連れてやってきた。

そこで持ってきた太い鎖を使い力を合わせてなんとか車を動かし駐車場に入れてくださったのである。

私は、言葉は通じないのであるが、感謝の言葉を何度か言つた。気持ちには態度でわかつてくれたのかもしれない。

「どこの国の方ですか？」尋ねても通じない。「インドの方？」「ベトナムの方？」と聞き続けると「パキスタン」と言葉が返ってきた。

私はお礼にと財布からお金を出し渡そうとした。ところがダメダメという手振りで受け取らずに帰っていった。

私はこのことをいつまでも忘れないでいる。遠い異国の人、言葉もなかなか通じない国で困っている人を助けてくれる。そのようなことはなかなかできることはない。

今でも感謝の気持ちを伝えたいくらいである。そしてこんな思いやりのある人たちが育てたパキスタンという国の

事をもっと知りたいと世界地図を広げている。

## 新任職員から

指導員 岩井 結菜

皆様初めまして。4月から指導員になりました岩井結菜と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

ある平日の夜、佐藤家の夕食に参加しました。夕食前に莉玖、凜、菜々が『ほんとうにあった怖い話』を見るのに、「岩井さんも一緒に見ようよ」と誘ってくれました。「岩井さん、怖いのだメなんだよね」と言いつつも内心は怖いもの見たさで一緒に見ることにしました。

第1話。ハッピーエンドで終わりそうな話の展開だったので、子どもたちと「ハッピーエンドだったね」と「普通に良い話」などと会話をしながら完全に安心しきっていましたが、最後の画面に切り替わった瞬間の恐怖に4人とも絶叫してしまいました。

凜「ハッピーエンドで終わりかと思った」莉玖「最後に裏切られた」菜々「ゆあい

(岩井) さ〜ん!! (笑)「な」と笑ったり叫んだり、他の職員にどういう所に驚いたのかを報告しに行ったりと大忙しでした(笑)

第2話。第1話でどんでん返しをくらってしまい、怖さを紛らわすために手を繋ぎ、横一列になって見ることに。徐々に怖さが増えてきた話の中盤あたりで莉玖が一言、「だいたいこういう主人公って好奇心あるよね。」「確かに」「ほんととその通りだよ」と莉玖の鋭いツツコミにみんなで笑っていたのも束の間、最後の画面に切り替わった瞬間の恐怖にまた絶叫。そして気付けば4人で手を繋いだまま円になり中心に集まっていました。少ししてこの状況が面白くなり、「何で円になって集まった?」「どういう状況?」などと笑いながらツツコんでいました。

興奮が冷めきらずでんやわんやしていたので一旦落ち着こうと『有吉の壁』を見ることにしました。子どもたちの大好きな番組らしくみんな大笑いながら見ていました。そして夕食の時間になり、

先程まで見ていた『ほんとうにあった怖い話』のどの場面が面白かったのか、どの場面に驚いたのかなどを話しながら盛り上がりました。

平日は子どもたちと過ごす時間が少ない私にとって、テレビを見ながら、夕食を食べながら、子どもたちと笑いの絶えない時間を共に過ごすことが出来てとても嬉しく思いました。これからも子どもたちと過ごす1日1日を大切にしていきたいです。

## アフターケア

副施設長 穴水 祐介

クリスマスおめでとうございます。今年は、コロナ禍で様々な規制のなか、どのようにしたらみんなが心をあわせ、豊かなクリスマスにできるのかを祈りつつ考えています。

毎年クリスマスの時期になると思うことがあります。それは光の子どもの家を卒園したり、何らかの事情で途中で退所した者たちが今どんなクリスマスをお過ごししているのかです。さみしい思いをしてい

ないか、お腹をすかしていないか、寒さに震えてはいないかなど連絡がつかなくなってしまう者たちのことを、にぎやかで、暖かく、豊かな食事で満たされた光の子どもの家のクリスマスのお祝いの中で心配をします。どんな困難な中にあっても神様の祝福によつて心が満たされるクリスマスプレゼントがあるようにとお祈りします。

先日思いがけない嬉しい連絡がありました。それは数年前に勉強が嫌いで高校を中退し、光の子どもの家も退所になった均から「定時制の高校で勉強し直そうと思う」とのことでした。「自分の将来を考えてやっぱり高校の学歴がほしい。そして高校で何か資格を取りたいと思う。」と話します。「昼間はアルバイトをして、夜は高校に行こうと思う。大変だけどがんばるよ。」勉強が大嫌いだっただ均の思いがけない決意に日々多忙の中で疲れていた私の心が癒やされ少し早いクリスマスプレゼントをもらいました。神様、均の決意が成就しますようにお祈りします。

## 冬のたんぽぽ

共育ちカンガルー日記 (57)

近藤 みちる

「冬たんぽぽ」という季語があることを教えてくれたのは父である。春にしか咲かないと思いついていたたんぽぽが、実は冬にもちらほらと咲いていることを、私はその時まで知らずにいた。それは秋生まれの優希にとって2度目の冬のことで、よちよち歩きを始めた優希を連れて、私はよく湯河原の実家を訪れていた。

優希はとにかく手のかかる子どもだった。一日中泣き通しな上、何をしても泣き止まず、あやしても視線すら合わなかった。育てにくさの原因が自閉症という生まれつきの障害によるものとは知る由もなかった。いつまで経っても母親としての自信が持てず、ただただ疲弊していくばかりの毎日を送っていた。

そんな私に、父は俳句を詠むことを勧めてくれた。当時、俳句結社誌「春野」の主

宰を務めていた父は、句会指導で出かける以外のほとんどの時間を、自分の書齋で過ごしていた。大きな机に大きな本棚。南に向けた明るく大きな窓からは、遠くふるさとの山々も望むことができた。

父はこの書齋で、いつも私達を歓迎してくれた。子煩悩な父に優希はよくなつき、いつしかそこは優希の格好の遊び場となった。遊びと言っても優希は好き勝手ままにいたずらをしているわけだが、そんな優希を父は穏やかな眼差しで見守り続けてくれた。私は本棚から歳時記や句集を手にとり、父から貰った句帳に思いつくまま五七五を書き留め、少しずつ俳句に触れるようになっていった。

「冬たんぽぽ」という季語を父に教わったのは、ちょうど大寒の頃だったかと思う。風もなく穏やかに晴れた暖かい日で、私達は3人で川べり

の遊歩道に散歩に出かけた。そこには冬の優しい日だまりが広がり、ふと道端に咲く小さな一輪のたんぽぽを見つけただ。

「たんぽぽって、冬でも結構咲いているのね。この子とお散歩するようになって、私も初めて気づいたの」。

「冬たんぽぽだ。季語だよ」。

「そんな季語あるんだ。可愛い季語だね。じゃあ、こんな句はどうかかな？」

冬のたんぽぽはじめてのベビー靴 みちる

「うん、冬たんぽぽがよく効いているね。寒くても元気で、命の力に満ちていて。ベビー靴にぴったりだよ」。

きつとおだて半分だったであろう父の褒め言葉に、私はなぜだか肩の力がすっと抜けていくのを感じた。

「それでいいよ。今の自分に詠めるものを詠めばいい。自分らしくね」。

春待つや積木積んでくづしとは

よく弾むシューソウ春の動き出す みちる

こうして父が誘ってくれた俳句の世界は、何気ない日々の暮らしの中にも、繊細な季節の移ろいや豊かな色彩が満ち溢れていることを、私に気づかせてくれたのだった。

優希に障害があることが分かっていたのは、次の年の冬のことであった。私の受けた衝撃は計り知れず、混乱と葛藤の渦に成すすべもなく呑み込まれていた。そのとき父は、いつも以上に穏やかな眼差しを私に向け、こう言った。

「大丈夫。こんなに可愛い子はどこにもいない。それだけでもう十分じゃないか」と。

思えば父はいつどんなときにも、私達の一番の味方であり、全てを受け入れ包み込んでくれたように思う。「こんなに可愛いんだから大丈夫」という父の言葉は、その時から私達の絶対的な道標となった。優希は優希らしく伸びやかに育ち、だからこそ今がある。父の言った通りだったと、改めて思うのである。

この秋、父は九十歳でその生涯を閉じた。亡くなる一カ月前ほど前、病床を訪れた私達に、父はこんな言葉をかけてくれた。

「子どもというものはね、この世に生まれて来てくれただけで、もう十分に親孝行なんだ。生まれて来てくれただけでありがとうなんだ。俺は本当に幸せだ。ありがとう」。

何度も何度もそう繰り返して、穏やかに微笑んだ父。それは父が私達に残してくれた最後の贈り物だったのかも知れない。まるであの日川べりで見つけた冬たんぼぽのよう

訃報

俳人の黛執氏が10月21日に逝去されました。氏は当施設創立時より長きにわたりご支援くださり、1994年から本誌「光の子」に俳句を提

供していただきました。生前のご尽力に感謝し、安らかに眠られますようお祈りいたします。

片隅でそっと咲き続け、私達の歩みを温かく見守り続けてくれることだろう。

いつか来た道冬のたんぼぽ摘んで みちる

佐藤家から

指導員 三井 正俊

佐藤家の年長さんの彬は私が職員になって初めてお風呂に入れた子どもです。きちん

と入れるようになるまでは大変でした。暴言を吐き暴れだす彬に慣れない私はどうしたら良いのか分からず先輩職員に助けを求める日々でした。彬をお風呂に入れる時間だけで心身ともに疲れてしまい、ここで働き続けることができ

るのかと思わされるほどでした。しばらくは彬をお風呂に入れることが私の中で大仕事となったのです。しかし、先輩職員の助けも借りながら、私も少しずつ慣れていき、楽しい話をしながらお風呂に入ることができました。

「ちよつと待つて！」とボデーソーブを手につけ始めたのです。私が「もう洗い終わ

になることです。「工事屋さんになつたら三井さんの家を建ててあげるよ！あつ、あとご飯も食べに来な！」と言ってくれます。(笑) 将来が楽しみです。

日々子どもたちから与えられる新しい気づきや感動に感謝です。これからも子どもたちと共に成長し続けたいと思います。



書類倉庫の整理をしました。保存期間の過ぎた文書を処分し、ホームセンターで買ってきた角材を組み合わせて棚を作りました。

# 子どもたちのかがやきとともに

## — 光の子どもの家をお支えください —

落ち葉が風に舞い、朝晩めっきり冷え込みます。今年もクリスマスの季節がやってまいりました。暗闇の中に光としてこの世においでくださったイエス様のお誕生日であるクリスマスは、何も無いところから皆様の祈りによって始まった光の子どもの家の創立の基盤であり原点です。子どもたちも楽しみにしています。みんなで心からお祝いできますように。

今年はコロナの影響でいつもと同じようにはいかないことだらけでした。子どもたちの入学、進級等のスタートもおぼつかず、長い休校にとまどい、夏休みも限られた時間になってしまいました。また普段の生活にも緊張と制限が加わり、子どもたちへの応援の仕方の工夫が求められました。それでもいつの間にか、その子らしくエネルギーを発散させ、ひとつ上の成長を見せてくれ、みんな元気です。

11月3日は、例年のように皆様をこの家にお招きし感謝の意をお伝えする集いを開催する予定でしたが、バザーに続き、残念ながらこの行事も中止せざるを得ませんでした。応援してくださる皆様に、これからも子どもたちの生活の様子をお伝えしてまいります。現在幼稚園児5名、小学生14名、中学生9名、高校生以上が8名、合わせて定員いっぱいの36名が本体施設3軒、そして地域に2軒の計5軒で暮らしております。年度変わりまで待つからと入所依頼は相変わらずです。幼いメンバーに加えて、はじめから自立を視野にいれての年長児の入所が相次ぎました。どの子にとっても今までよりもこれからのほうがずっと長いことには変わりありません。出会いを感謝しホッと一息つきながら安心した生活ができるよう応援してまいります。

やっと防水工事が着工致しました。あれもこれも、とたくさん修繕箇所が確認された中ですが、子どもの居住棟を最優先とするスタートとして、取り急ぎ、雨漏り対策をはじめることができました。この手直しのあと、大規模改修プランに向けて動きはじめます。これから実現にむけて様々な計画が必要です。お願いばかりでこころ苦しいのですが改築に向けて暮らしの環境を引き続き整えることができますよう、必要が満たされますようご支援を引き続きどうぞよろしくお願い致します。

皆様のお祈りとお支えをこころから感謝し、  
ご健康が守られクリスマスの祝福が豊かにありますようにお祈り致します。

社会福祉法人 光の子どもの家      理事長 大高晋一郎  
光の子どもの家を支える会      代 表 永野 三恵

郵便振替 00130-1-128022

### 他銀行からのお振込み

銀行名	ゆうちょ銀行	店名	019 (ゼロイチキュー店)
預金種目	当座	口座番号	0128022
店番	019	金融機関コード	9900

仙道家から

保育士 岩崎 まり子

甘い香りが夕闇に漂い、「金木犀だね」と言うと、小2の龍太が尋ねます。

「キンモクセイって何？」皆様、お元気ですか。

日頃、ゲーム機に日常を侵食されていることを反省し（?）、シルバードライクの中日に流ふれあいの森へパーベQをしに行ってきました。

そこは10年以上前、今、高校生の蒼士が当時の担当の田口に抱っこされて参加したキャンプ場でした。蒼士以外は皆、卒園生になって久しいようなメンバーです。いつまでも焚火の周りで、ばかなことを言ったりやっていたことを思い出し、懐かしかったです。

さて、今回は……。中高生のお兄さんたちは、パーベQの後、「WiFi、つながらないとか……。？」と絶句し、それでも何とか出るゲームをやり始めました。自然に囲まれながら……

「川へはまだ行かないの？早く行くよ。」

と、川遊びを楽しみにしていた正宗と哲之。歓声をあげながら川の中を走り回って楽しんでいました。私も一緒に滑りやすい石、意外にふかふかで滑りにくかった水草に覆われた石、所々深かったり速かったりする川の様子を体感しました。

最近太り気味の龍太は、30センチくらいの小さな滝を見下ろし、

「まりつぺ、ここは危ないよね。行かない方がいいよね。正宗君、もどってきてー。……こつちからなら行けるかも……。 (ヨイシヨ) 行けた！まりつぺもおいで。大丈夫だよ。」

生意気なことを平気で言う子どもたちですが、こういうかわいい一瞬／＼を共有できることで、何とかなる”と思えたりします。先々の不安はさまざまありますが、皆様、どうぞご自愛下さいますように。



ある日の昼食。芝生にシートを敷いて座卓を置き、炭火でパーベキュー

日誌抄

2020年9月～10月

【10月末現在の在籍児童数】

- 幼児 5名 小学生14名
- 中学生9名 高校生7名
- その他1名 計 36名
- (二時保護を含む)

【9月】

1日 幼稚園の2学期始まる

5日 18年前に交通事故で亡くなった、かずき祈念礼拝

8日 本園室内消毒  
竹花、施設長会（オンライン）

9日 定期監査 埼玉県と加須市がそれぞれ来訪

10日 光の子どもの家後援会臨時役員会 新会長に山下勝夫氏が就任

佐藤、埼玉研幹事会（オンライン）

11日 中学校体育祭 密集を避け離れたところから応援

12日 昭和女子大より実習生1名、28日まで

18日 職員礼拝 若月健悟牧師（守谷教会）ご奉仕

中学校との連絡会

19日 ポートレート 昨年引き続き浜田氏による撮影

20日 ボランティア山田ご夫妻来訪 子どもたちと手芸など

25日 竹花、施設長会（オンライン）

28日 防水工事（本園子どもの家）開始

9月生まれ誕生会 屋内で全体が集まる会食は3月の出発の会以来

29日 通報避難訓練

【10月】

- 1日 大規模改修について建築会社と打ち合わせ
- 2日 幼稚園運動会 参観人数制限あり
- 倉澤家児童居室壁修繕とクロス張替 5日まで
- 6日 三井、埼児研フォローアップ研修（オンライン）
- 7日 ポートレート 前回不在だった者の撮影
- 12日 施設内研修のため藤岡孝志氏（日本社会事業大学教授）来訪
- 14日 後援会役員会
- 原道小就学時健診 彬と吉尚がもう小学生かと感慨深い
- 15日 公用車（マーチ）車検へ出すも、積年の傷みにより廃車に 補充を検討中
- 16日 職員礼拝 若月健悟牧師ご奉仕
- 中学校音楽祭 今年は校内のみの開催で参観できず
- 18日 高3生1名就職試験へ
- 19日 10月生まれの誕生会 本園豊替え
- 23日 夕礼拝 木田浩靖牧師（東埼玉バプテスト教会）ご奉仕
- 25日 ボランティア山田ご夫

妻来訪

- 26日 施設内虐待防止研修
- 31日 理事会
- 原道小学校運動会 幼児や中高生も応援へ

【寄贈者各位】

- 新井好江 大橋清栄 小澤喜代子 小野早代子 檀渕歌世 菊地友枝 小池みどり 櫻井秀夫 佐藤尚子 島田義敬 清水里佳 清水亨桐 杉山和俊 鈴木史乃 須藤フミ 臺 滝口好子 竹林勝子 丹羽吉康 根本勝美 山田智子 山田裕子 湯澤真彦 渡辺幸子 大宮アルディージャクラブハウス NPO法人クロスワイズ 佐川急便(株) 高橋会計事務所 株式会社チュチュアンナ1%クラブ (株)なとり 羽生の杜 東大宮教会 マルキチ物産 マルハン古河店 屋久島東部茶生産組合 山芳製菓(株) 他多数の皆様 (敬称略)

【ボランティア各位】

- 岡田 岡本有代 常松洋介 浜田文昭 山田智 山田裕子 他多数の皆様 (敬称略)

クリスマスシーズン 仙道家窓の切り絵より

MERRY CHRISTMAS & HAPPY NEW YEAR

今年も多くの方々の祈りに支えていただきました。感謝いたします。

今年度のクリスマス祝会は施設内だけで行います。コロナ禍が落ちつき、また皆様をお招きできる日が来ることを心待ちにしております。

大変な思いをされている方々に癒やしを。そして皆様に豊かな祝福がありますよう、お祈りいたします。

【発行】社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】〒349-1155 埼玉県加須市砂原277-3  
 【電話】0480-72-3883 【FAX】0480-72-6649 【メール】hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp  
 【Webサイト】http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【振替】00130-1-128022  
 【印刷】(株)エル・アートデザイン